

まつかわ太陽の会  
清一 竹村幸宏 原田 西尾明廣  
名北 宮澤正典 中荒町 矢澤勇  
東浦 松本朗彦 羽場 宮沢朋文

## 何億かかるか分からない、いつ出来るか分からない、 町民を欺く、元気センター新築計画!!

町民を騙した令和2年4月のライフサイクルコストの嘘  
面積・工事費を決めず(900㎡、3億円? 1,500㎡、7億円?)、  
無駄金6,500万円で「もったいない建物」を解体しようとし、  
不都合な意見は無視、  
アリバイ作りと責任転嫁に検討委員会を使う

## 宮下町政に公金(町費)を扱う 資格もモラルも能力もない!!

そして、松川町入学祝金支給要綱を無視し、  
中学生の入学祝金を中止しようとした宮下町長

## ふんばる松川町議会!!

その時! 議員たちは . . .

※私達は自身の実名を載せ、意見広告を出しています。この意見広告は決して怪文書などではありません。町民の皆様には、この意見広告の内容が嘘か真実か、ご自身で確認しご判断いただきたいと思ひます

# ● 町民を欺く元気センター新築計画

## 1. でっち上げられた変更理由

宮下町長は、平成31年4月、着工直前だった深津前町長の改修費用1億8,500万円の元気センター計画(資料1)を止め、その1年後の令和2年4月24日の議会全員協議会で、黒塗りで業者の名前を隠した報告書(資料2)を根拠に既存建物の解体を前提とした新築に方針転換をしました。

資料1：深津前町長の、改修費1億8,500万円の元気センター計画



項目	数量	単価	合計
建築主体工事	1式		115,810,000
電気設備工事	1式		28,560,000
機械設備工事	1式		49,140,000
外構工事	1式		6,380,000
<b>合計</b>			<b>199,890,000</b>

※消費税8%込み(税抜き185,000,000)



資料2：令和2年4月24日、議会全員協議会での業者名が黒塗りの報告書

[これまでの意見]に加え、上記第三者による評価中、

- 現状の店舗建築と社会福祉施設建築の用途差から劣化も考慮すると費用対効果が低いこと。また、必要な給排水設備を設置する場合、現実的には床を30cm程度嵩上げする必要があり、大きな段差が生じてしまうこと。
- 建築後60年までに必要となる概算ライフサイクルコストと比較した場合、新築工事の場合、年間約600万円のコストの削減が図られる。

以上を踏まえ、『みんないっしょ』の考えのもと、「コミュニティカフェ」、「出張サービス」、「地域活動支援センターあすなろ」、「自殺対策相談窓口」、「エコール親愛」の事業に加え、地域住民が気軽に立ち寄れる機能を持たせた2階建ての建物に改築し、緑や駐車場の確保をし、地域共生社会の理念の実現を目指したものとしたい。

令和2年4月24日

松川町元大倉スーパーマーケットの社会福祉施設(児童福祉施設等)への用途変更について

株式会社 [黒塗り]

- 建物の概要
  - (1) 地番・・・長野県伊豆郡松川町元大倉3835-1地
  - (2) 主要用途・・・商店(スーパーマーケット)
    - 用途変更後「児童福祉施設等」(児童厚生施設、子供遊戯施設、障害者支援施設等の複合施設)
  - (3) 敷地面積・・・2,741.76㎡
  - (4) 建築構造・・・鉄骨造半地下
  - (5) 建物の概要・・・建築面積:1,253.44㎡ 延床面積:1,244.3㎡
- 用途変更について
  - (1) 建築確認申請・・・建築基準法第6条第1項、第7条により用途変更、大規模の構造転入に該当するため確認申請の提出が必要。
  - (2) 換装後・・・確認申請時に取付同意書の提出が必要。
- 建物の現況の状況について

4. 社会福祉施設への転用について

(1) 耐震性・・・鉄骨造の新耐震基準のため、現在の柱、梁、基礎等に手を加えなければ問題ありません。

4. 社会福祉施設への転用について

(1) 耐震性・・・鉄骨造の新耐震基準のため、現在の柱、梁、基礎等に手を加えなければ問題ありません。

(2) アスベスト・・・天井材撤去の際、アスベスト処理が必要です。

(3) 床・・・土間コンクリートがなくなったため、新築時に土間の厚さを30cmの範囲で配筋のコロシ又は土間スラブを解体し配筋を撤去する必要があります。

(4) 外構・・・既存ALCは部分的に劣化しており、補修が必要です。元用途が小規模のため内部に面する壁が少なく、ALCを解体して壁を設置する必要があります。

宮下町長は、新築への変更理由を議会と検討委員会で、業者名が黒塗りの報告書を根拠として、

- ① 現状の店舗建築と社会福祉施設建築の用途差から、劣化も考慮すると費用対効果が低いこと。また、必要な給排水設備を設置する場合、現実的には床を30cm程度嵩上げする必要があり、大きな段差が生じてしまうこと。
  - ② 建築後60年までに必要となる概算ライフサイクルコストで比較した場合、新築工事の場合、年間約600万円のコストの削減が図られる。
- と説明してきました。

### 【①に対する見解】

業者名が黒塗りの報告書でさえ「耐震は問題ない。」としています。

また、床の30cmの段差についてですが、給排水設備工事の為の床の段差解消工事は、改築でも新築でも一般的な工事で、たいしたものではなく新築への変更理由にはなりません。

そもそも、深津前町長が計画した改修費用1億8,500万円の改修案は①のことも前提とした上での改修設計であり、①は新築への変更の理由にはなりません。

続いて、②に対する見解を、述べます。

### 【町民を騙した、ライフサイクルコストの嘘!!】

資料3は宮下町長が令和2年4月から、新築に変更の最大の理由として挙げてきた「改修より新築が600万円下がる」根拠となる概算ライフサイクルコスト(LCC)の算定表です。

資料3：令和2年4月21日の、概算ライフサイクルコスト(LCC)算定表

改修工事の場合 (現在築30年のため鉄骨造の耐用年数60年までの30年間で計算)		60年間のライフサイクルコスト												計
項目	面積	0年-5年	6年-10年	11年-15年	16年-20年	21年-25年	26年-30年	31年-35年	36年-40年	41年-45年	46年-50年	51年-55年	56年-60年	260,000,000
大規模改修工事	1,200					260,000,000								
解体費	1,200					4,764,000	6,294,000	52,506,000	25,482,000	31,722,000	15,618,000	346,000	131,610,000	
光熱費	1,200					31,320,000	31,320,000	31,320,000	31,320,000	31,320,000	31,320,000	31,320,000	187,320,000	
計						296,084,000	42,360,000	88,312,000	61,548,000	67,786,000	51,664,000		608,036,000	
改修費260,000,000円														
60年目の解体費19,000,000円														
LCC改修工事(30年間)20,267,867円/年														
LCC新築工事(30年間)19,751,567円/年														
LCC新築工事(60年間)14,337,292円/年														
60年目の解体費14,300,000円														

新築工事の場合 (30年間のライフサイクルコスト (既存建物の解体費は含まない))		60年間のライフサイクルコスト												計
項目	面積	0年-5年	6年-10年	11年-15年	16年-20年	21年-25年	26年-30年	31年-35年	36年-40年	41年-45年	46年-50年	51年-55年	56年-60年	200,000,000
新築工事費	900	200,000,000												
土壌維持費	900													
解体費	900													
光熱費	900													
計		200,000,000												200,000,000

新築工事の場合 (60年間のライフサイクルコスト (既存建物の解体費は含まない))		60年間のライフサイクルコスト												計
項目	面積	0年-5年	6年-10年	11年-15年	16年-20年	21年-25年	26年-30年	31年-35年	36年-40年	41年-45年	46年-50年	51年-55年	56年-60年	200,000,000
新築工事費	900	200,000,000												
土壌維持費	900													
解体費	900													
光熱費	900													
計		200,000,000												200,000,000

この概算ライフサイクルコスト算定表は、新築工事が有利になるように、多くの数字がごまかされています。 具体的には、

#### 1：改修費の嘘

深津前町長の改修費1億8,500万円を2億6,000万円に偽造しています。

この事について、当時保健福祉課長の米山総務課長に質問したところ、「2億6,000万円とは何ですか?よく覚えていない。」とごまかしました。

#### 2：面積のごまかし

改修工事の面積は1,200㎡に対して、新築面積は900㎡なっています。

面積は単に初期投資・修繕費・解体費等の工事費だけでなく、ランニングコストである水道光熱費にも影響します。面積が違っては比較になりません!!

#### 3：解体費のごまかし

改修工事には既存建物の解体費1,900万円を算入していますが、新築工事には初年度に発生する既存建物解体費が算入されていません。ただし、解体費は現在、当初の3倍以上の6,500万円になっています。

#### 4：使用年数のごまかし

改修工事での使用年数は30年で、新築工事での使用年数は60年として比較しています。年数が異なっては比較になりません。このことも、新築が有利となった結果に大きく影響しています。

これ等のことについて、令和4年2月、当時保健福祉課長であった米山総務課長に質問したところ、

「分からない。覚えていない。」という返事でした。当時、担当者兼責任者であった米山総務課長が改修を新築に大転換した重要な数字を覚えていないはずがありません。(参考資料 : R4.2音声データ : まつかわ太陽の会資料室 : 以下 資料室)

## 【正しいライフサイクルコスト(LCC)】

資料4は、資料3の「概算ライフサイクルコストの算定」方法に準じて、以下の1～5の条件で、旧ハローミヤでの改修工事と新築工事のライフサイクルコストと初期投資額を比較した表です。(使用年数の範囲は10年ごとにしてあります。)

- 1、改修費：1億8,500万円
- 2、改修、新築ともに面積：1,200㎡
- 3、改修工事には解体費6,500万円(廃棄物処理費600万円+解体費5,900万円)を算入  
新築工事には解体費6,500万円(廃棄物処理費600万円+解体費5,900万円)及び新築建物の解体費を算入
- 4、比較年数は改修、新築とも60年で算出し比較
- 5、改修工事については、30年後にさらに30年使用するための大規模改修工事として1億円を計上  
また、改修工事の大規模修繕費・各所修繕費・光熱費は1億8,500万円の改修工事でもリニューアルされた後であること、また、面積を1,200㎡に統一したので、新築工事と同額としました。

資料4：正しいライフサイクルコスト(LCC)と初期投資額の算定表

### 1、旧ハローミヤの改修工事の場合

(円)

項目	面積(㎡)	30～40年	41～50年	51～60年	61～70年	71～80年	81～90年	60年間合計
大規模改修工事	1,200	185,000,000	0	0	100,000,000	0	0	285,000,000
大規模修繕費	1,200	15,870,000	66,888,000	84,612,000	58,800,000	57,204,000	18,774,000	302,148,000
各所修繕費	1,200	4,110,000	7,788,000	9,528,000	9,492,000	9,492,000	9,492,000	49,902,000
廃棄物・解体費	1,200	6,000,000	0	0	0	0	59,000,000	65,000,000
光熱費	1,200	58,200,000	58,200,000	58,200,000	58,200,000	58,200,000	58,200,000	349,200,000
計	1,200	269,180,000	132,876,000	152,340,000	226,492,000	124,896,000	145,466,000	1,051,250,000
初期投資合計	1,200	191,000,000					60年LCC=	17,520,000

現在の建築費による税込初期投資額：250,800,000

### 2、旧ハローミヤ解体後、面積1,200㎡の新築工事の場合

(円)

項目	面積(㎡)	0～10年	11～20年	21～30年	31～40年	41～50年	51～60年	60年間合計
新築工事	1,200	426,666,667	0	0	0	0	0	426,666,667
大規模修繕費	1,200	15,870,000	66,888,000	84,612,000	58,800,000	57,204,000	18,774,000	302,148,000
各所修繕費	1,200	4,110,000	7,788,000	9,528,000	9,492,000	9,492,000	9,492,000	49,902,000
廃棄物・解体費	1,200	65,000,000	0	0	0	0	30,933,333	95,933,333
光熱費	1,200	58,200,000	58,200,000	58,200,000	58,200,000	58,200,000	58,200,000	349,200,000
計	1,200	569,846,667	132,876,000	152,340,000	126,492,000	124,896,000	117,399,333	1,223,850,000
初期投資合計	1,200	491,666,667					60年LCC=	20,397,500

現在の建築費による税込初期投資額：634,700,000

※青字は、初期投資・廃棄物処理費・解体費です。

※赤字は、現在の建築費が令和2年4月時点より上昇しており、上昇率を20%として算出しています。

この算定表から、

- 1) 改修工事の場合の60年間のライフサイクルコストと初期投資額は、

**LCC: 1,752万円      初期投資額: 2億5,080万円**

- 2) 新築工事の場合の60年間のライフサイクルコストと初期投資額は、

**LCC: 2,040万円      初期投資額: 6億3,470万円**



となり、ライフサイクルコスト(LCC)が良いのは新築工事より**288万円少ない**、

**1,752万円 の改修工事**の方だということが分かります。

更に分かることは、旧ハローミヤでの新築工事の初期投資額は

**6億3,470万円で改修工事の2億5,080万円の2.5倍**です。

**この初期投資額は、ライフサイクルコスト以上に重要です。**

以上より、宮下町長が新築への変更の根拠とした、「新築工事の場合、年間約600万円のコストの削減が図られる」という話は虚偽です。また、宮下町長が初期投資額に言及しないこともおかしい話です。

そして、宮下町長は令和4年3月の議会定例会において、坂本議員の「改修工事直前だったものを新築に変更した理由は何か?」という質問に対して、今まであれだけ主張してきた「ライフサイクルコスト600万円削減」の話は全く無く、「総合的に判断した」とごまかしていました。

このことも、令和2年4月の業者名が黒塗りの報告書にあるライフサイクルコストが虚偽であった証ではないでしょうか。

## 2. どうなるか分からない面積と建設費 !!

### 【明言を避ける宮下町長】

宮下町長は6,500万円の解体費が上程された令和4年1月の臨時会で、議員の方から面積・建設費について質問されても答えず、1,716万円の設計料が上程された同年3月の定例会での社会文教常任委員会会議でも、度重なる議員の方からの面積・建設費についての質問に対して、「数字は持ち合わせていない」とごまかしました。

納得できない議員の方の一般質問での厳しい追及には、前言を翻し、「あるけれど言えない」と頑なに回答を拒否しています。

**隠す理由はどこにあるのでしょうか?おかしい話です!!**

### 【面積・工事費に関する今までの経過】

1) 深津前町長が旧ハローミヤを購入する時に補助金を使っており、その補助金の条件が、新しい施設の面積が544㎡の老人福祉センターと885㎡の地域活動支援センター(旧北名子保育園)の面積を合計した1,429㎡より小さくなければならない、即ち、1,429㎡未満であることだったそうです。

ちなみに、旧ハローミヤの改修面積は1,225㎡で、改修工事費1億8,500万円で設計が終了していました。

2) 宮下町長は令和2年4月、議会全員協議会で新築に変更する方針を示し、その時の面積が900㎡でした。

この時、宮下町長は1,225㎡から900㎡に減った面積について全く説明していません。この900㎡についてはその後の検討委員会でも説明していません。

そこで、令和4年2月、竹村が当時の担当者であった米山総務課長(当時保健福祉課長)にこのことを質問したところ、「A社に旧ハローミヤの面積1,225㎡で新築したら幾らかかるか聞いたところ、3億2,000万円の見積もりが出てきた。次に、B社に聞いたら3億2,000万円では出来ないというので、B社の言う㎡単価でA社の3億2,000万円を割ったら900㎡になった。」という回答でした。

あまりにも馬鹿げたおかしな話なので、「何故、B社に1,225㎡の積算をしてもらわないのか？これでは、A社の単価で工事額を決め、B社の単価で元気センターの面積を決めることになる。こんなおかしな話はない。」という、米山総務課長は「何もおかしくない。」という返事でした。

3) この疑惑の900㎡について、宮下町長は検討委員会で説明をしていません。米山総務課長(当時保健福祉課長)に「検討委員会で説明してないのでは？」と質問したところ、「令和2年7月20日の第7回検討委員会の資料には900㎡が記載されているから、説明している。」と聞き直りましたが、第7回検討委員会の会議録には900㎡の面積について議論された形跡はありません。

更に、最後となった第8回検討委員会の終わりに、委員から「先日全協の折、用地・建物は3,350万円の起債をして購入したことと、現在の面積よりも1㎡でも少なくしないといけないことの説明を受けたが、これに縛られて完成したときに残念な思いをしないように、その縛りが取れるような形はできないか。」との要望を受け、米山総務課長(当時保健福祉課長)は「起債に縛られて建物を作ると悔いが残るのではと、議会でもご意見をいただいている。財政との相談になるが、一旦起債を返納するという形も有りか、検討したい。」と答えています。(参考資料：第8回検討委員会：資料室)

このやり取りは、議員選出の委員の「1,429㎡の縛りを外すように」という要望に米山総務課長(当時保健福祉課長)が「債権を返して、1,429㎡の縛りを外す検討をする」と答えているのです。

第7回検討委員会でライフサイクルコストにより決定した900㎡の説明があったとしたら、このような話になるはずはなく、第7、8回の検討委員会が大騒ぎになっていたはずです。

### 3. 一番遅くなるのは、宮下町長の「解体後の新築工事案」!!

宮下町長と宮下町長の方針に賛成する議員の方々は「宮下町長案に反対派の主張では遅くなる」と言っていますが、これは虚偽です。

#### 【解体工事の期間】

解体後の新築工事の場合、現在のスケジュール表では解体工事期間が6ヵ月になっています。一方、改修工事と他の場所での新築工事の場合は、この6ヵ月は必要ありません。

#### 【抜けている埋蔵文化財発掘調査期間】

宮下町長は、新築に方針転換をして工期を二転三転しています(詳細は意見広告12の7,8頁)が、現在の工期は令和6年3月になっています。しかし、このスケジュールには何ヵ月掛かるか分からない埋蔵文化財発掘調査(遺跡発掘調査)の期間が入っていません。

このことについて、令和4年2月に、令和3年3月まで保健福祉課長だった米山総務課長に「何故、遺跡発掘調査の期間と費用が抜けているのか？」と質問したところ、「気が付かなかった。」という返事でした。(参考資料：R4.2音声データ：資料室)

遺跡発掘調査については、毎年、生涯学習課から各課に対象の案件があるか問い合わせがあるそうです。

令和3年4月、新しく保健福祉課長になった加山議会事務局長が、遺跡発掘調査の検討がされていないことに気がついたそうです。

現在、宮下町長は議員の遺跡発掘調査の費用と期間についての質問に対して、「解体しなければ、費用も調査期間も分からない。」と明言を避けています。

気が付かなかった米山総務課長(当時保健福祉課長)は6年間保健福祉課長を担当し、深津前町長の、旧ハローミヤを購入して元気センターとして活用する計画から深く関わってきた責任者です。その担当者が、改修をして利用するために購入した建物を解体して新築するという大転換にあたり、費用と工期に大きく影響する可能性がある遺跡発掘調査に気が付かないとは到底思えません。これもおかしな話で、解体、新築変更にとって不利な情報を隠したのではないかと思っています。

### 【再検討するのに必要な時間】

現在の新築計画を推進している方々は「ここまで来た計画を変更すると、完成がおくれてしまう。」という理由で、当初の改修工事や他の土地への新築工事への変更に対しています。

確かに、第1回検討委員会が平成30年8月30日に始まり、令和4年1月27日第1回の建設委員会が行われるまで計8回の委員会が終わったところで、現在、3年半という期間が経過しています。

しかし、8回の委員会の全審議時間は15時間40分です。すなわち、第1回の検討委員会に戻っても約16時間戻るだけです。

また、再検討したとしても今まで検討したことが全く意味が無くなるわけではなく、殆ど無駄にはならないでしょう。ここで立ち止まって再検討しても、あと1、2回の検討委員会が必要になるだけで、約4時間位の遅れで済むと思います。

以上より、解体工事と遺跡発掘調査が必要な新築工事の場合が、一番遅くなります。宮下町長は「反対派の意見は工期を遅らすことになる。」と言っていますが、これは明らかに、虚偽です。

## 4. 予算を否決されても、1月からごまかし続けている999㎡の疑惑のプラン !!

宮下町長は、令和4年1月27日の第1回建設委員会(以下、建設委員会とする。)で999㎡のプロポーザル入札で決定した(株)アーキディアックのプランを提示しています。

しかし、令和4年1月21日～2月1日の臨時会、2月24日の臨時会、3月3日～3月22日の定例会で6,500万円の解体費が掛かる新築工事に反対する議員などから総工事費等の説明を求められたのですが、宮下町長は予算が否決されても頑なに拒み続けています。(詳細は後述します。)

この宮下町長の姿勢はあまりにも不自然で、理解できません。

### 【何故、隠す! 宮下町長!!】

資料5は、999㎡を1,000㎡としての、ライフサイクルコスト(LCC)と初期投資の算定表です。

資料5：旧ハローミヤ解体後、面積1,000㎡新築工事のLCCと初期投資額の算定表

項目	面積(㎡)	0～10年	11～20年	21～30年	31～40年	41～50年	51～60年	60年間合計
新築工事	1,000	355,555,556	0	0	0	0	0	355,555,556
大規模修繕費	1,000	13,225,000	55,740,000	70,510,000	49,000,000	47,670,000	15,645,000	251,790,000
各所修繕費	1,000	3,425,000	6,490,000	7,940,000	7,910,000	7,910,000	7,910,000	41,585,000
廃棄物・解体費	1,000	65,000,000	0	0	0	0	25,777,777	90,777,777
光熱費	1,000	48,500,000	48,500,000	48,500,000	48,500,000	48,500,000	48,500,000	291,000,000
計	1,000	485,705,556	110,730,000	126,950,000	105,410,000	104,080,000	97,832,777	1,030,708,333
初期投資合計	1,000	420,555,556					60年LCC=	17,178,472

現在の建築費による税込初期投資額： 540,833,333

※青字は、初期投資・廃棄物処理費・解体費です。

※赤字は、現在の建築費が令和2年4月時点より上昇しており、上昇率を20%として算出しています。

資料5の算定表から、旧ハローミヤを解体して、面積1,000㎡の新築工事とする場合の60年間のライフサイクルコスト(LCC)と初期投資額は、

**LCC: 1.718万円**      **初期投資額: 5億4,083万円**

となり、ライフサイクルコストは改修工事の17,520,833円とほぼ同額ですが、初期投資額は改修工事の2億5,080万円から約2億9,000万円の増額となり、2倍以上です。

更に問題は、この999㎡の(株)アーキディアックのプランは1,245㎡の旧ハローミヤの80%の面積しかありません。

あくまでも推測ですが、宮下町長が(株)アーキディアックによるプランの詳細公表を隠している理由は、面積が20%小さくなり、工事費が2倍以上かかるこのプランが表に出ると、反対意見を止めることが出来ないと考えて、まず解体して、後戻り出来ないようにしようとしたのではないかと思います。

## 5. それでは、一番良い選択は？

資料6は8つの場合のライフサイクルコスト(LCC)と初期投資額をまとめた比較表です。

私達は、平成31年2月の意見広告5の6～9頁で元気センターは885㎡の旧北名子保育園を改修して作ることを提案しましたが、現在、この改修費についてのデータを持っていないので、試算していません。

ただ、旧北名子保育園を1,200㎡(旧ハローミヤの面積)の建物にするためには、増築面積が315㎡になり、ハローミヤの改修より、約8,000万円位増額になり、あくまでも推定ですが工事費は3億3,000万円位だと思います。

資料6：8パターンのライフサイクルコスト(LCC)と初期投資額の算定表

	場所	面積㎡	初期投資額	60年LCC	
1 改修	旧ハローミヤ	1,200	250,800,000	17,520,833	深津前町長案
2 新築	旧ハローミヤ	1,200	634,700,000	20,397,500	
3 新築	別の場所	1,200	563,200,000	19,314,167	
4 新築	旧ハローミヤ	900	493,900,000	15,568,958	
5 新築	別の場所	900	422,400,000	14,485,625	
6 新築	旧ハローミヤ	1,500	775,500,000	25,226,042	
7 新築	旧ハローミヤ	1,000	540,833,333	17,178,472	宮下町長案
8 新築	別の場所	1,000	469,333,333	16,095,139	

※No.1、2は資料4、No.7は資料5です。その他はNo.1、2、7と同様の方法で算出したもので、算出表はまつかわ太陽の会資料室にあります。

**これら8つの場合から選択するとしたならば、一番良いのは、初期投資額が圧倒的に少なく(2億5,080万円)、面積が一番広い(1,200㎡)No.1の改修工事だと思います。**

No.6は第8回検討委員会の議員選出委員の要望に沿う、1,429㎡の縛りを外した場合の例として面積1,500㎡の新築のライフサイクルコスト(LCC)と初期投資額ですが、初期投資額が7億7,550万円になりました。



宮下町政はこのプランを「補助金を返すことを含めて検討する」と言っているのです。(参考資料：第8回検討委員会会議録：資料室)

60年間のライフサイクルコスト(LCC)についてですが、まず、「ごちゃまぜの元気センター」が60年間、町民の必要な施設として続くことはほとんどないと思います。その根拠は、今から60年前の昭和37年の松川町民がどのようなものを望んでいたか、社会福祉施設がどのようなものだったのかを、検証してみれば分かるはずです。

当然、新築した建物は60年後も使用できますが、もし将来、建物を違う目的で利用することになった場合、数億円の大規模改修が必要となり、LCCは大きく変わります。

以上より、60年間のライフサイクルコストはあまり意味がないと思います。

## 【No.1とNo.7の比較】

ここで、平成31年に設計済みである深津前町長が決定したNo.1の(有)稜 建築デザインの1,222㎡のプラン(以後、プランF)と宮下町長が決定したNo.7の(株)アーキディアックの999㎡のプラン(以後、プランM)を比較検討します。次ページの資料7は縮尺を統一して比較出来るようにしたものです。

間取り、コスト、工期を比較しますと、

間取り：プランFはプランMより、面積が2割以上広く、また、プランMは階段とエレベーター室があり、実質の利用面積は999㎡より狭くなります。

また、プランMは老人デイサービス所が二階に設けられていますが、高齢者は一階の方が良いと思います。以上より、平屋で面積が2割広いプランFの方が良いと思います。

コスト：工事費は、プランFが2億5,080万円に対して、プランMは5億4,083万円で、約2億9,000万円高く、2倍以上です。

ライフサイクルコストはほとんどかわらず、コスト面も圧倒的にプランFが優れています。

工期：解体工事もなく、埋蔵文化財発掘調査の必要もなく、設計が平成31年に終わっているプランFの方が圧倒的に早いはずで、工期についてもプランFです。

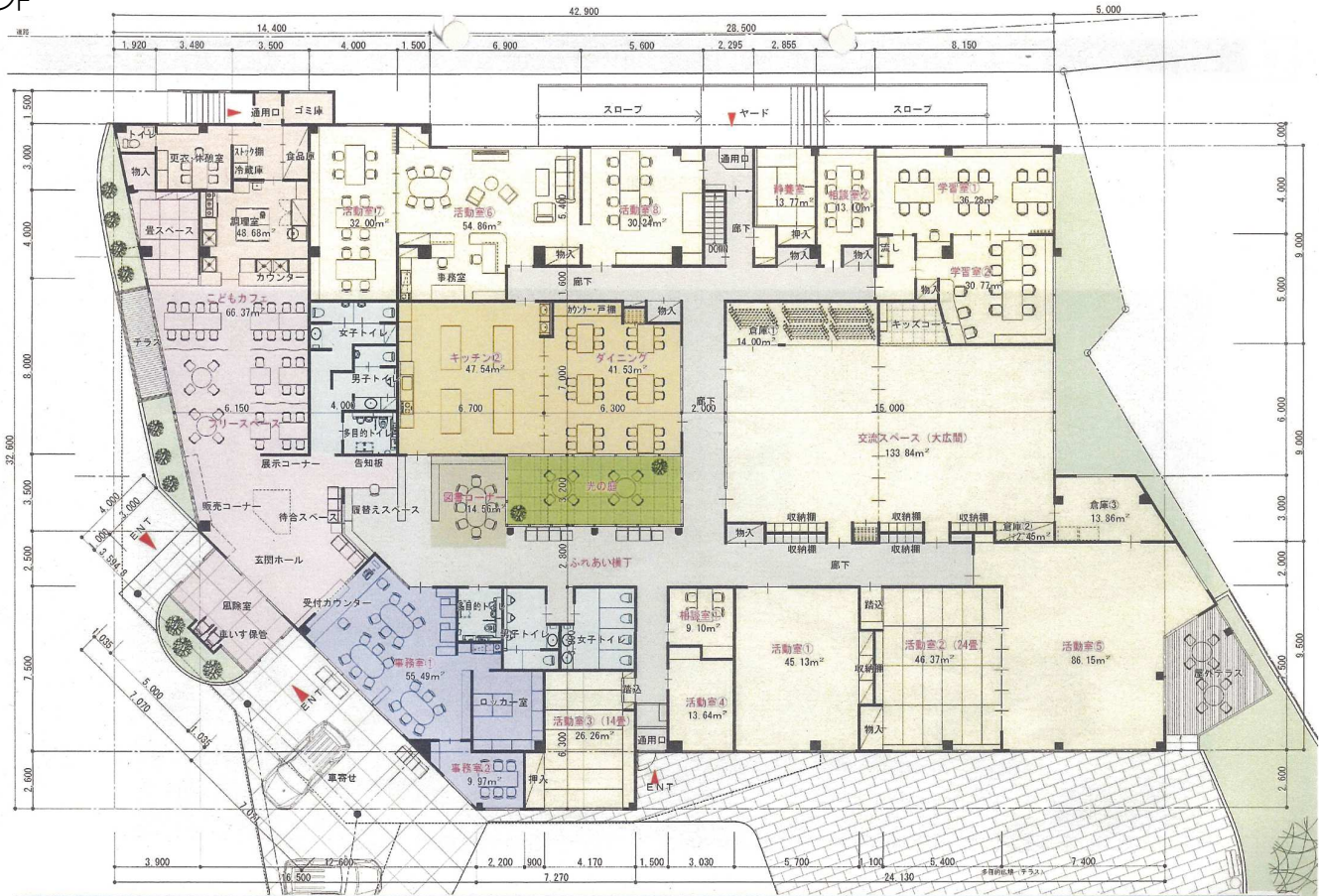
過去、私達は意見広告5においてプランFに反対をしましたが、現在、宮下町長が進めるNo.7のプランMと比べれば、すでに設計が終了している深津前町長のNo.1のプランFの方が数倍優れていることは確信できます。

資料7：縮尺を統一したプランFとプランMの図面(次ページ)

上側：プランF(深津前町長が決定したNo.1の(有)稜 建築デザインの1,222㎡のプラン)

下側：プランM(宮下町長が決定したNo.7の(株)アーキディアックの999㎡のプラン)

プランF



『元気センター(仮称)』設計提案

全体平面図

S = 1:150

4

プランM





## 6. 価値ある丈夫な建物を利用せず、壊そうとする宮下町長 !!

町長には「もったいない」という言葉はないのですか？

あなたにSDGsを語る資格はない !!

令和4年2月24日の臨時会で、旧ハローミヤの解体を決定した宮下町長は、坂本議員からの「過去に松川町で耐震強度がある建物を解体したことがあるのか？」という質問に対して、「分からない」との回答をしました。

坂本議員は「丈夫な建物は壊さずに使うべきだ。もったいない。」といているのですが、宮下町長にはそのような考えは全く無いようでした。

今回の旧ハローミヤ解体は耐震性に問題がない丈夫な建物を廃棄するということであり、明らかにエコノミーではありません。また、建物の解体は一番大きな廃棄物を生み出します。当然、それに伴う環境負荷が発生するわけです。これはエコロジーではありません。

### 【旧青年の家も解体しようとした宮下町長!!】

宮下町長は就任した令和元年秋、深津前町長が引き取った耐震性・耐久性のある町一番の建築物である旧青年の家を解体すると言い出しました。(参考：意見広告8の5～9頁)

結局、1年半後の令和3年3月に断念したのですが、最後まで町長は解体したかったようです。(参考：意見広告12の6～8頁)

### 【つかう責任】

宮下町長が強く推進する、SDGs(持続可能な開発目標) 17のゴールの12番目は「つくる責任 つかう責任」です。

宮下町長の、耐震性・耐久性のある丈夫な建物を解体する行為は「つかう責任」の放棄です。

深津前町長が旧ハローミヤを買い取った時点で、松川町は「つかう責任」を負ったはずですが。

宮下町長は深津前町長が決めた旧青年の家や旧ハローミヤには「つかう責任がない」と思っているのでしょうか。それとも、「つかう能力がない」のでしょうか。

いずれにしても、

旧ハローミヤを解体しようとする宮下町長にSDGsを語る資格は無いと思います。

## 7. 検討委員会・建設委員会を都合良く利用する宮下町長 !!

### 【検討委員会の総意ではない新築変更・解体費ヒアリングの嘘】

宮下町長は新築への変更理由や6,500万円の解体費について「全て検討委員会で討議したもので自分が単独で決めたものではない。委員会の意見を反映したものだ。」と、解体後の新築に反対する議員の方や私達に反論しています。

まず、新築変更への意見は令和元年11月8日の第5回検討委員会であった、一人の委員による1回だけです。(参考資料：第5回検討委員会会議録：資料室)

ところが、令和2年1月31日、第6回検討委員会で突然、宮下町長は解体後に新築する方針を打ち出したのです。

その為、一部の委員からは「新築なのか?元々は改築だったのでは?」、「建物を購入したのではないか。買ったのに新築では、建物のムダ使いになってしまうのではないか。」などの意見が出ています。  
(参考資料：第6回検討委員会会議録：資料室)

また、令和3年10月のまちづくり懇談会で宮下町長は3倍に増額した解体費について、「検討委員会でヒアリングをしていく中で決めた。」という話でしたが、検討委員会、建設委員会の会議録には全くそのような事実はありませんでした。(参考資料：第7、8回検討委員会会議録・建設委員会(準備会)、第1回建設委員会会議録：資料室)

### 【嘘の情報で反対意見を潰した宮下町長】

令和2年7月20日の第7回検討委員会で、多くの委員から「新築に変更するなら、別の場所を検討すべき」という意見が出ていました。(参考資料：第7回検討委員会会議録：資料室)

その中の有力な候補の一つに上片桐の専用側線跡地がありましたが、令和3年1月15日の第8回検討委員会で、宮下町政はこの候補地に対して、「面積が2,000㎡しかなく、造成費は1億円ほどかかる。」と言ってこの意見を潰しました。(参考資料：第8回検討委員会会議録：資料室)

この事は事実と全く異なります。事実は、まとまった土地だけでも4,200㎡以上あり、周辺を含めればもっとあります。

また、2,000㎡の造成費が1億円ということは1㎡あたり5万円の造成費がかかるということで、1坪あたり約17万円かかるということです。あまりにもでたらめな話で、委員の方たちを軽視するにも程があると思います。

この2点について、令和4年2月10日、当時担当者であった米山総務課長に竹村が問いただしたところ、2,000㎡の面積については返答がありませんでした。

また、1億円の造成費についてはしどろもどろで、後でもらった回答書も全く要領を得ないものでしたので、更に調べたところ、平成24、25年頃、専用側線の町有地と周辺の民有地約8,000㎡に深津前町長が子育て支援集合住宅を検討した時のものでした。これには周辺の民有地の買収費も含んだ、これ以上は絶対に増えない、最大の積算だということでした。

宮下町長はこのような虚偽の情報により、自身の考えに都合の悪い意見を潰したのです。

### 【予算に口を出すなという宮下町長!!】

令和4年1月27日、第1回建設委員会で委員の方の「予算についても建設委員会で詰めていくべきでは。解体においても高額で困っている。予算も含めて委員として検討していくべきでは。」との意見に対して、宮下町長は「あくまで予算審議は議会の場。皆様にはユーザーとして使う側のご意見をいただきたい。凶面はたたき台。お金の工面はこちら側で頑張ります。行政として気付かない面を皆さんからいただきたい。」と答えています。(参考資料：第1回建設委員会会議録：資料室)

これは、委員の「予算も建設委員会で検討すべき」という建設委員として当然の意見を宮下町長は「予算には口を出すな。」と全否定しているのです。

松川町元気センター(仮称)建設委員会設置要綱の第2条(任務)には「委員会は、松川町元気センター(仮称)の建設に伴う設計、施工、運営計画等に関する事項及びその他松川町長が必要と認める事項について審議する。」と記載されており、宮下町長のこの発言は明らかに、この第2条に違反しています。(参考資料：松川町元気センター(仮称)建設委員会設置要綱：資料室)



自ら作った要綱を無視し、自分が聞きたいことだけ答えれば良いと言っているのです。宮下町長には職務を誠実に努めようとしたこの委員の方に対するリスペクトなど無いのでしょうか。

宮下町長は、町長なら要綱を無視しようが何でもできると思っているのでしょうか。酷いものです。

## 【2年9ヵ月で6回?】

宮下町長が初めて開いた検討委員会は就任の7ヵ月後でした。その後、2ヵ月後、6ヵ月後、6ヵ月後、建設委員会は9ヵ月後、3ヵ月後に開催されています。

2年9ヵ月で6回です。これでは、前回のことを思い出すだけでも大変です。真に検討して貰うつもりがあるならば、このような開催はあり得ません。

ちなみに、深津前町政での検討委員会は当初1ヵ月おきに3回、最後は設計終了の3ヵ月後でした。6ヵ月で4回開催され、プランFが出来ていました。

## 8. 町民の皆様へ！ 今すべきことは！！

検討委員会、建設委員会そして議会のどの会議録、議事録を見ても解体後の新築工事に変更した合理的な理由は見つかりません。また、宮下町長からも合理的な説明はありません。

- ・現在、ロシアのウクライナ侵攻により世界経済に大きな影響が出始めています。
- ・建築単価は宮下町長がうろろうしている間に、コロナ禍の影響で高騰しています。ウクライナ危機の建築単価への影響はこれからです。
- ・コロナ禍やウクライナ危機の影響での物価高騰などの、住民生活への影響も計り知れません。町は、可能な限りお金を準備し、備えるべきです。
- ・このような非常時に、6,500万円の無駄な解体費を使っては駄目だと思います。
- ・そして、宮下町長のプランは、何億かかるか、いつ出来るかわかりません。

今すべきことは、「もったいない旧ハローミヤ」の中を片付けて、いざという時に建物を使えるようにすることです。これは無駄にはなりません。

そして、立ち止まり、考えることではないでしょうか。

## ● ふんばる松川町議会！ その時、議員たちは!!

### 【令和4年2月1日、1月臨時会最終日】

令和4年1月の臨時会に、それまで1,900万円だった解体費が突然6,500万円に増額されて上程されましたが、2月1日の臨時会最終日で社会文教常任委員会から提出された「解体費6,500万円が削除された予算修正案」が賛成6票、反対6票の同数で議長裁決により可決されました。

この時の討論では、賛成・反対の全議員が発言しています。このことは16、17期議会での5年半の中では初めてだそうです。

各議員の発言内容を発言順に記載しますので、ご覧下さい。ただし、記載内容は各議員の発言中の賛成・反対の理由についてのみ拾い出したものです。全発言については、チャンネルユーカ役場議会事務局にお問い合わせください。

## 【「解体費6,500万円が削除された予算修正案」に対する各議員の発言】

### 〔賛成議員〕

- 米山義盛議員：解体費が6,500万円に激増。議論が不十分。遺跡発掘費用や全体像が、不明瞭。
- 坂本勇治議員：当初の用地買収のリフォーム方針が無視されている。検討委員会は新築ありきで恣意的に誘導されたのでは。早期設置を望むならリフォーム方針の方が早い。
- 加賀田亮議員：議論が不十分。正当な手順を踏むべきで、急いでいることは理由にならない。福祉案件は、意義と優先順位ついて時間をかけて合意すべき。
- 間瀬重男議員：解体費6,500万円はどう見積もっても高すぎる。議論を尽くして3月議会に上程すべき。
- 米山俊孝議員：解体費6,500万円の説明が足りない。住民が納得するレベルになるまで議論に時間をかけるべき。
- 川瀬八十治議員：解体費6,500万円は税金投入するには高すぎる。解体新築方針は遺跡発掘が必要。時間と費用がかさむ。

### 〔反対議員〕

- 塩沢貴浩議員：早期設置が求められている。
- 松井悦子議員：解体費増加は許容範囲である。これまで設計費を認めてきた。新築方針を撤回するのはおかしい。入札で節約すればよい。
- 森谷岩夫議員：国の補助金が使える。利用者の要望が新築ならそれに沿うべき。
- 中平文夫議員：議論は十分尽くされている。利用者から早期設置の声と陳情。今更あとにもどれない。これまでの議論が無駄になる。
- 米山郁子議員：検討委員会は最終的に新築方針を結論とし、議会は追認した。
- 大蔵洋議員：検討委員会は最終的に新築方針を結論とし、議会は追認したその姿勢を堅守すべき。期限内に国の補助金を使うべき。

### 〔議長裁決〕

- 黒澤哲郎議長：賛成。予算審議を付託された社会文教常任委員会の修正案を議会として尊重すべき。

## 【令和4年2月24日、臨時会】

しかし、同年2月24日の臨時会で、1月の臨時会の原案と全く同じ予算(6,500万円の解体費を含んだ予算)が上程され、前回解体費を否定した間瀬重男議員が翻意されたため、賛成7票、反対5票で、残念ながら解体費を含んだ予算が可決されました。

## 【令和4年3月18日、定例会】

同年3月18日の定例会最終日に社会文教常任委員会が提出した、

- ・建設費用も分からない実施設計費の1,716万円を削除する。
- ・支給しなければならない中学校の入学祝金240万円分を増額する。

という予算修正案が、賛成6票(米山義盛、坂本勇治、加賀田亮、米山俊孝、川瀬八十治、塩沢貴浩 各議員)、反対6票(松井悦子、森谷岩夫、中平文夫、大蔵洋、米山郁子、間瀬重男 各議員)で同数となったため、議長裁決となり、黒澤哲郎議長は「予算審議を付託された社会文教常任委員会の修正案を議会として尊重すべき。」ということで修正案は可決され、実施設計費1,716万円は削除され、同時に、宮下町長が止めた中学校の入学祝金240万円が復活しました。

### 【まだ、議会は止められる!!】

現在、解体費6,500万円の予算は認められていますが、5,000万円以上の契約には議会の承認が必要になります。解体工事はこの対象になるので、この契約を議会が否決すれば、「耐震強度がある丈夫でもつたいない旧ハローミヤ」の解体を止める事が出来ます。

宮下町長は認められていない実施設計費1,716万円を再度上程してくるはずですが、再度、これを止める事が出来れば、宮下町長の愚行は止められます。

補助金は改修工事でも受け取れるはずですが、解体後の新築は宮下町長の方針で、検討委員会は利用されただけです。議会が全て追認したなら議会ではありません。町長の暴走を止めるのも議会の重要な役割だと思います。

## ● そして、松川町入学祝金支給要綱を無視し、 中学生の入学祝金を中止しようとした宮下町長!!

宮下町長の解体新築計画は令和2年4月24日の議会全員協議会で900㎡、令和3年1月15日の検討委員会で1,429㎡以上を検討するとなり、令和4年1月27日の建設委員会で3億5,000万円、999㎡のプランMになり、しかし、宮下町長は議会には「数字は無い」とプランMを隠蔽しています。

完成予定は、令和2年4月では令和4年4月、令和3年2月では令和5年3月、令和3年7月では令和6年3月、現在、遺跡発掘調査が未定で完成も未定です。宮下町長は昨年4月、ベテラン議員のアドバイスを無視し、当初からの責任者を変え、今年4月、また、責任者を変えました。そして、とりあえず、解体費と実施設計費8,200万円の予算を要求しています。

この予算要求をする一方で、宮下町長は松川町入学祝金支給要綱を無視して、中学校の入学祝金240万円を削ってきたのです。このことを令和4年3月18日の定例会で追及され、結局、入学祝金を支給する予算修正案が可決されたのですが、悔しかったのか、宮下町長は入学祝金を止めた反省をするどころか、「文句があるなら、不信任を出せ」というようなことを最後の挨拶で言っていました。

宮下町長!! 「不信任」という言葉を簡単に発してよいものでしょうか?

どうしても納得出来ないのであれば、「自ら辞任して信を問う」というのはどうでしょうか?

## ● 役場職員をダメにする宮下町長!! 日本一の職場はどこへ?

宮下町長は副町長だけでなく、4月に県から県職員を課長職として派遣して貰いました。松川町政始まって以来、初のことでしょう。

課長職は各業務の責任者です。課長の派遣依頼は従来の県と町との交流とは全く違います。宮下町長は役場に課長職の人材がないとして、役場職員を見限って県にお願いしたのでしょうか。

あってはならない話です。

平成31年の就任直後、宮下町長は役場職員の皆さんに「日本一の職場にする」と宣言しました。

令和4年3月15日の定例会一般質問で、この「日本一の職場にすることは、どうなっているのか」という質問に対して、「難しい」と軽く答えていました。更に、宮下町長は就任直後の日本一の職場発言は地域が盛り上がるようにと発言しただけ、とのことらしいです。

町長は職員の能力を如何に引き出すことが出来るか、出してもらえるかが職務です。今回の県への課長派遣依頼は、多くの役場職員のやる気を無くす最低の判断です。

そして、結果的には宮下町長は自ら、「自分には、課長を決める能力が無い。役場組織を作る能力が無い。」と言っているのです。

県で上手くいかなかったら、次は国へ頼むのでしょうか?

宮下町長には、松川町の誇りや松川町のアイデンティティは無いのでしょうか。

### 町民の皆様へ

宮下町長は深津前町長が始めたハーフマラソンを止め、旧青年の家を壊そうとし、旧ハローミヤを解体しようとし、松川町入学祝金支給要綱を無視し、就任直後の「日本一の職場にする」という職員への約束など無かったかのように職員も壊そうとしています。

現在、何億かかるか、いつ出来るか分からない宮下町長の元気センター新築計画と議会軽視、町民軽視、役場職員軽視の宮下町政に危機感をもった議員の方たちが頑張っています。

松川町議会史上初めてではないかと思われる賛成6反対6の議長裁決が続いています。

**宮下町政の愚行と暴走を止める為に私達が出来ることは、  
頑張っている議会に注目し、応援することです!!**

**選挙で選ばれた宮下町長は  
絶大な権限を持っています。  
やはり、最後は選挙だけです。**

まつかわ太陽の会 (事務局: 竹村工業株式会社内)  
TEL: 0265-36-6213 E-mail: info@matsukawataiyo.org

[使用した資料は、下記アドレスにて詳しくご覧いただくことができます。](#)  
[まつかわ太陽の会 資料室 http://matsukawataiyo.org](http://matsukawataiyo.org)